

小田原市千代中学校  
2004 年度  
3 年総合学習レポート

石綿志帆さん	1-2 頁
村山麻利子さん	3-7 頁
田中沙織・嶋村麻美・石綿頌子さん	8 頁

# 小田原をこんな町にしたい

小田原市立千代中学校

3年4組 石綿 志帆

私は小田原を、昔からの伝統産業を生かした、文化的で多くの人に受け入れられる市にすることを提案します。

## 提案理由

小田原にはかまぼこや寄木細工などの質の高い伝統産業が多くあるのでそれを多くの人に受け入れられるよう発展させ広めていくことで、小田原を元気ある市にしたいのでこれを提案します。

## 具体案

### 1、伝統産業を生かした行事を行い小田原の伝統のよさを伝える。

げたの生産高日本一を誇る福山市松永町は、その伝統産業を生かした祭り「ゲタリンピック」を行い町を活気づけました。なので、小田原も伝統産業を生かした地域の人全員が参加できる行事を作り、それによって伝統産業を広めて地域を活性化できるとよいと思います。具体的には小田原の伝統産業にちなんだ競技を行う運動会を一つの町全体で行うことを考えています。例えば、かまぼこ型の棒を引っ張り合う競技や、バトンのかわりにちょうちんを持って走るリレーなどをやり伝統産業を多くの人に知ってもらいたいと思います。

### 2、伝統産業の作品などを展示した博物館を建て、一つ一つの伝統産業をよく知っ

てもらおう。

小田原には寄木細工や木象嵌などのすばらしい伝統工芸品があるのでそれらを展示して小田原だけではなくほかの地域の人々にも知ってもらえるようにしたいです。また、作品だけではなく、伝統工芸品の歴史や年表やどのようにしてできるかが分かるように制作途中のものを飾り長い歴史や職人の技のすごさを感じてほしいと思います。

### 3、かまぼこや梅などの小田原の伝統的な食べ物を使った料理を出す料理店を作

る。

小田原の伝統的な食べ物の味を知ってもらうため、その食べ物を使ったおいしい料理を出す店を作ればよいと思います。小田原の自然を生かして作られた、かまぼこや漬物などの食べ物を、多くの人に味わってもらいたいです。

## 自分にできること

小田原のよいところをアピールする映像を作りインターネットで見てもらえるようにする。

多くの人に見てもらえるようにインターネットを使って小田原のよいところを紹介する映像を作り発信したいと思います。寄木細工などの伝統工芸品の代表的な作品、かまぼこなどの食品のできるまで、小田原城の歴史、小田原特有の施設などを紹介してくれた人に少しでも小田原について興味を持ってもらい実際に来てもらい小田原の伝統産業や文化にふれてほしいと思います。

## まとめ

小田原の伝統産業、文化は小田原の歴史の詰まった誇れるものだと思います。この伝統をずっと守り続け発展させていくことが市の発展につながると思います。なので、これからはもっと伝統産業、文化にふれこれについての多くのことを知りより身近なものにしていきたいと思いました。

# まちづくりについて

小田原市立千代中学校 3年 村山麻利子

## 1. 動機

これまでの総合学習でいろんなことを学びました。

世界遺産（ユネスコ）について学習した時は、世界遺産がなくても、地域で大切なもの、これから残していきたい物を発掘し、それを大切にしていける活動。“プチ世界遺産”の活動があることを知り、修学旅行で京都へ行った際には、京都で「町家CLUB」という町づくりを市民団体でしている方にインタビューをし、町づくりについて大変なことや、市民でやるからこそ……といった利点なども知ることができました。

私はこれらのことを発展させ、どんな市民団体による町づくりがあるのか、どんな成果があるのかについて、またそれは小田原市に生かせることは何かないか、を課題として町づくりについて調べることになりました。

## 2. 様々な町づくり

うえだ百勇士委員会（長野県上田市）

真田氏発祥の地。上田城等がある。

- 1 上田市街地の町並みを観光客が歩いて楽しめる町づくりを目指す。  
紺屋町、柳町付近に上田文化を集約し、古い町並みと風情を保存する指定地域にして、観光スポットとしてPRする。  
長野界隈の焼物市、特産物を扱った即売所を設置、定期的に市を開く。  
上田つむぎ、染物など体験コーナーをつくる。  
真田十勇士や小松姫などの衣装を着て記念撮影できるコーナーをつくる。  
生け花や野点など、文化的イベントを月に1回開く。  
上田の散策をテーマ別のコースをつくり、散策マップ、道標をつくる。  
散策コース各所に「道先案内人」として簡単なガイド案内する店・家のポイントを置く。  
⇒そのために…協力・協賛してくださる個人・企業を上田市HPや広報うえだで呼びかけ実現へ
- 2 上田出身、または上田で活躍した歴史上の人物とその偉業を市民に伝えたい  
多くの人のものを絵本や冊子にまとめ、学校、図書館、食堂、喫茶店などに配る（学校でもそれなりに指導をお願いしたい）。  
真田親子、仙石氏、松平氏をもとにうまく織り交ぜてパネル展示する。

- 3 城下町上田・蚕都上田の町並みと文化を残したい
  - 「景観形成重要建物指定」の推進により、歴史的建造物の保存。
  - 連続性をもった北国街道の町並み保全。
  - 路地の再発見と城下町らしい旧町名の復活検討。
  - 養蚕・蚕種・蚕糸業にかかわる民俗資料の収集と保存。
  - 民家再生の考え方の普及。
  - 神楽などの伝統芸能・花岡塗りなどの伝統工芸を残したい。
- 4 上田の観光情報のPR効果をUPする方法
  - 上田市観光情報だけを集約したサイトを制作し、新しいHPを日々更新する。上田市HPとリンクする。
  - 上田市キャッチコピー・キャラクターを上田市民から公募する。
  - 長野新幹線（JR東日本）で上田の観光PR（キャッチフレーズ）をバックアップしてもらう。
  - 観光テーマ別で上田ガイド案内をまとめたCD-ROMを制作し、東京方面の各所で配布し宣伝する。
  - 「上田市総合情報ガイドの刊行」2003年度版の制作。
  - 駅前整備により観光案内標識板の設置、図書館ライブラリーの壁面を利用して観光案内板を設置する。
  - 真田の里、上田「真田十勇士モニュメント」の設置。
  - 真田まつりを市民総参加の大きなイベントとしてとりあげてPRする。

#### 天王文化塾（愛知県津島市）

- 1 津島町に残る独特な町並み、町家文化の保全活動。
  - 津島の町並みを「生活の場」として再生していくこと。
  - 街路を歩く人にとって「心和む」町並みであり、住む人にとって「暮らし良い」場となる「まちづくり」を行なう
  - 津島市に多数存在する神社仏閣を町並みに取り込んでゆくこと。
 ⇒ 津島市に存在する「古い町並み」である「本町筋の町並み」を町並み保全再生地区として活動を展開。
- 2 天王文化塾月例会
  - 津島の歴史において、人物、文献、地理、お祭りなどについて講師をお迎えして講座を開催。
- 3 天王子ども塾
  - 地域の子もたちと一緒に遊びながら、津島の歴史文化にふれていく活動。
- 4 津島の歴史入門書編集
  - 独特な津島の歴史に気軽にふれられるように文化塾が編集する歴史入門書。
- 5 旧街道歴史散策
  - 津島を経由する「旧街道」を巡りながら点在する史跡にふれる催し。
- 6 津島の食文化再現と創造
  - ごず（牛頭）茶会を開催。町家にて味わい深く演出された空間にて毎回違った趣の「お題」にちなんだお料理を味わいながら、津島の歴史講話などし、津島を学ぶ。
  - 津島の食文化のPRと新たな食開発をする。

## 茨戸川環境市民フォーラム

- 1 環境保全活動  
茨戸川周辺の環境保全。  
河岸の自然生態系再生。
- 2 調査研究活動  
専門家を交えたフォーラム。  
水域環境の持続的保全活動。
- 3 環境学習活動  
水域環境での環境教育活動の計画と運営。
- 4 普及啓発活動  
自然環境の持続的保全等に関する普及啓発活動。

## 3. 小田原市の現状

### 小田原の郷土芸能

- 鹿島踊り……毎年7月第3土曜日、寺山神社の祭礼のときに境内で披露される踊り。  
⇒平坦な農地に恵まれない地域の人びとに信仰の糧を与えた悪疫退散、部落防衛を祈る踊り。
- 寿獅子舞……毎年普我の梅祭りに上演される。  
⇒一種のパantomのような神楽。豊年祈願と感謝のために神社に奉納。祝い事の行事にも披露。
- 相模人形芝居……市内の国重要無形民俗文化財に指定されている。下中座によって伝承されている。  
⇒3人で1体の人形を操る。
- 小田原囃子……祭囃子の一種。  
⇒江戸で将軍の御用祭りに用いられ各地に広まった。笛を中心に大太鼓、小太鼓、摺り鉦を用いて演奏する。
- 小田原ちょうちん踊り……夏祭りに多くの市民が市内を躍り歩く。
- ⇒小田原ちょうちん踊り保存会が小田原ちょうちん再認識普及のために考案。
- 箱根馬子唄・長持唄……入生田地区の人たちにより保存されている。仕事唄。  
⇒馬子唄は箱根の山道を登り下りする馬子たちが唄っていたもの。長持唄は大名行列の駕籠かきが元気を出すために唄っていた。
- 栢山地区の田植え唄……起源は不明。今では唄えるお年寄もわずかに。
- ⇒古くから唄い継がれてきた田植え唄。農作業・農村の暮らしを唄い込んだもの。  
大漁木遣唄
- ⇒ブリ漁が盛んだった小田原の漁港で旗を揚げる際、全員の気合を合わせるために唄われた。

### 小田原の著名人

- 北條早雲……1代で小田原北條氏5代100年の繁栄の礎を築いた人。
- 大久保忠隣……小田原第2代藩主。大久保忠世の長男。
- 稲葉正利……江戸初期の小田原藩主。稲葉家第2代。幕府老中を24年担った人。
- 大久保忠真……小田原藩主。加賀守。幕府老中を20年間担った。
- 二宮尊徳……栢山生れ。江戸時代に報徳仕法をおこした。農聖としたわれました。
- 福住正兄……二宮尊徳の高弟。家業を立て直した。
- 村井弦斎……明治大正のジャーナリストで小説家。
- 北村透谷……明治初期の文学界で指導的役割をはたし、近代浪漫主義の先駆者と呼ばれた。

北原白秋……明治の詩人。8年間の小田原での生活で、その風土をこよなく愛し、多くの童謡を発表。

辻村伊助……植物学者、登山家。辻村農園を開き、また「スイス日記」を発表。山岳文学界に新風を吹き込んだ。

#### 小田原の食

かまぼこ

梅干し

ひもの

地酒

漬物

#### 小田原の自然

酒匂川

メダカ……メダカ为学校

## 4. 小田原市に生かせること

2項目の町づくりから

### キーワード

独特・古い町並み / 体験コーナー / 記念撮影 / 散策 / 講座 / (歴史についての) 冊子 / 伝統芸能を残す / 子どもに伝える / キャッチコピー / キャラクター / 食文化の再現・創造 / 環境保全 / 環境教育

上のキーワードから小田原市に生かせることを考えてみました。

小田原の古い町並みを発見・保存・活用していく。

⇒城下町として……。国府津の古い建物。

体験コーナーを作る。

⇒かまぼこ作り、童話づくり、ちょうちん作り。

記念撮影の場を作る。

⇒北條祭りの姿、二宮尊徳。

小田原散策するためのコースづくり。

⇒史跡(一夜城跡)

小田原の歴史や人物史の簡単ガイドブック。

⇒子どもでもわかるような冊子。

伝統芸能を残す。

⇒イベントを開き、市民に見たり、やってみたりしてもらう。

小田原(まちづくり)のキャッチコピー・キャラクターの募集

⇒市民から公募し、市民によるまちづくりを意識、また接しやすく。

食文化。

⇒小田原に古くからある食(名産)のエピソード。食べ歩きおススメスポット。

住み良い環境をつくる。

⇒キャンペーンをつくる。

環境について考える。

⇒酒匂川の今。堤防について……。メダカについて。

-----  
--そこで、私は提案します--

1. 小田原市の昔ながらの町並み、建造物を大事にしてゆく。  
(国府津の歴史的な建造物の活用についても)
2. 体験コーナー・イベントを開き、小田原の伝統にふれ合えるようにする。  
(例：)手づくりかまぼこ教室、なりきり北原白秋童話づくり、ちょうちん教室など。
3. 観光客の小田原への記念として記念撮影の場をつくる。  
(例：)北條祭りの時のような衣装、東海道の旅の旅人、二宮尊徳の。
4. 小田原散策のコースを作成する。  
(例：)史跡めぐりなどのコースをつくり、話やちょっとしたガイドをしてくれる店のポイントをつくる。
5. 小田原の歴史、人物史の簡単ガイドブックを作成し、4.の散策をする人や学校等に配布したりして、小田原のすごいところを知ってもらう。
6. 伝統芸能のイベントを開き、専門の方の演奏等を見たり、また体験させてもらい伝統芸能を残してゆく。
7. 小田原(まちづくり)のキャッチコピーやキャラクターを市民から公募して、まちづくりのことに興味を持つようになってもらい、また接しやすくなるようにする。
8. 古くからある伝統的な食べ物(名産物)を利用して食べ歩きオススメスポットをつくり、観光客に紹介したり、その食べ物についてのエピソード等の小さなパンフレットをつくり店に置いといてもらう。また、伝統の食を生かし、新しい名産の発明をする。
9. 住み良い環境をつくるために、市民にまちをきれいにするキャンペーンを立てたり、今、小田原市がどのような環境(川)で、どんな環境(川)への工夫があったのか。またメダカについても知ってもらい、これからについて考えてもらう。

-----  
以上のまちづくりを考えました。  
機会があったらぜひ考えてみてください。

## 伝統文化を取り入れた街づくり～文化に生きる～

小田原市立千代中学校

田中沙織・嶋村麻美・石綿頌子

3年総合学習大テーマ「小田原をこんなまちにしたい」  
私たちの研究テーマ『伝統文化を取り入れた小田原の街づくり』

### = 動機 =

- ・小田原に活気を戻すために、伝統を取り入れた取り組みができないかと思ったから。
- ・伝統行事の一つである『祭り』をよくするためには、どのような工夫をすればいいかかと思ったから。

### = 現状・問題点 ～私たちの視点から～ =

- ・小田原の伝統的な文化に対して、地元の人でも関心が薄れてきている。
- ・一部の祭りで、若い人たちの参加数が減ってきている。

### = 解決策 ～提案～ =

- ・祭りの参加数を増やすための取り組みとして、小・中・高等学校や、福祉施設などに、チラシやプリントを配布する。
- ・ロビンソン百貨店やイトーヨーカ堂などで、小田原の伝統的文化のイベントや展示会、体験教室または、店舗を展開する。
- ・小田原の街に、伝統工芸の技術を取り入れたオブジェなどをつくる。

### = まとめ =

- ・小田原の街づくりに、伝統工芸を取り入れて（生かして）いくには、解決策で提案したような内容を、各地域ごとで取り組んでいくことが必要である。
- ・地域のつながりを深めていくために、祭りなどの伝統行事をもっと盛んにしていくための工夫が必要である。

### = 感想 =

- ・小田原をもっと盛んな街にしていくためには、私達自身も意識して、行事や文化に積極的に関わって、次の世代へと伝えていく事が必要だと思った。
- ・調べてみて、地域との関わり合いや活動が、街を盛んにしていく上で必要だという事を学んだ。